



私の
**なんとか
しなきゃ!**

Vol. 5

PROFILE

1962年大阪府出身。同志社大学法学部卒業後、中部読売新聞（現・読売新聞中部本社）に入社。退職後フリーライターを経て、2004年『ハゲタカ』でデビュー。『虚像の砦』『ペイジン』などヒット作多数。現在、別冊文藝春秋で『コラブティオ』を連載中。「なんとかしなきゃ!プロジェクト」著名人メンバー。

数年前、イギリス人の小説家ジョン・ル・カレ原作の映画を見て衝撃を受けました。ケニアの首都ナイロビを舞台にしていたのですが、これまでにない、アフリカの“闇”に迫った作品でした。彼の母国であるイギリスがしてきたことも含めて、従来の小説の世界ではあまり触れられてこなかった、ダークな部分にどんどん切り込んでいたのです。

自分が作り上げたストーリーを通じて、現代社会に警鐘を鳴らす。それこそ小説家の使命だと、ガツンと言われたような気がしました。ですから、いつか自作でも何らかの形でアフリカを取り上げたい、外の世界に無関心な読者に向けて、日本とのつながりを意識できるような物語を書きたいと考えていました。

そのような思いもあり、連載中の『コラブティオ』では、日本の政治や報道の在り方、原子力問題などと絡めて、資源の宝庫であるアフリカを登場させ



photo by Shinichi Kuno

同じ時代に生きる人間として

小説家 **真山 仁**

MAYAMA Jin

ることにしました。そして昨年10月、執筆に必要な情報を得るために、原子力発電の燃料ウランの産出国であるニジェール取材したのです。

作品の中で“国際協力に携わる日本人”という設定のキャラクターを描くために、現地では青年海外協力隊の方々にもインタビューをさせていただきました。5日間の滞在で、彼らの活動の2年間を吸収したい。JICAの方にお願ひして、さまざまなバックグラウンドを持つ20人の隊員に会うことができました。

意気揚々とボランティアに来て、当然のことながら、大きな壁にぶち当たる。隊員一人一人と接していると本当に多種多様で、それぞれが違う葛藤を抱えていました。現地の人と同じ目線に立ち、真つすぐに相手の目を見て話す。そんな人間として当然のコミュニケーション能力が、今の日本人には欠けています。しかし、苦勞しながらも、現地の人たちと必死に向き合おう

としている隊員もいた。“鉛のような暑さ”のニジェールに来て、一から試行錯誤する経験こそ、日本の未来を担う若者に必要なことだと確信しました。

日本も厳しいこの時代に、なぜアフリカを支援するのかと言う人もいます。しかし実際に、私たちは生活に必要な資源の大部分を途上国に依存しています。世界中どの国がなくなっても、私たちの生活は成り立たない。日本人もアフリカの人、同じ時代に、地球という一つの球体の中で生きていることを忘れてはなりません。

何よりも、まずは好奇心を持つこと。そして、思い切って居心地の良い場所から出てみると、何か違ったものが見えてくるのではないのでしょうか。

「なんとかしなきゃ!プロジェクト」は、開発途上国の現状について知り、一人一人ができる国際協力を推進していく市民参加型プロジェクトです。ウェブサイトを中心に、さまざまな国際協力のカタチを提案していきます。
詳しくはこちらから→ [なんとかしなきゃ.jp](http://www.jica.go.jp/nakanokashinakyajp)